

<公共学科>(中学校一種免許状(社会))

各段階における到達目標

| 履修年次 |    | 到達目標  |
|------|----|---|
| 年次   | 時期 |   |
| 1年次  | 前期 | 公共学科では、地域社会の創造に関わる公共空間の創成と運営について教育研究することを教育理念とし公共空間のマネジメントに関わる経営的発想と企画力・実行力を有する人材の育成を目指している。この学位プログラムを基軸として、本学教職課程履修生は、1年次前期に教職に就くことの意義や社会的使命、あわせて服務内容、分限と懲戒、校務分掌等について、また生徒の心身の発達や学習理論、障がいを持つ生徒の発達、学習過程についての基礎的理解を深めることを到達目標とする。更に教科に関する一般的包括的科目から政治や外国史一般、日本史の基礎、自然地理学の基礎的領域、内外の思想等、社会科の歴史・地理・公民の各分野の基礎的な知見を修得することを到達目標とする。  |
|      | 後期 | 1年前期に引き続きゼミナールIB(1年次ゼミ)などの学部カリキュラム(自成分成長プログラム)を通じて、学生各自の進路について熟慮する機会を与え、望ましい勤労観・職業観の形成を図り、教職への適性も熟考させる。加えて教育の理念や思想、歴史の基礎的理解と教育に関する社会的事項(いじめや不登校といった今日的課題)や教育の制度、そして学校経営の内容についての見識を深め、教員という職業への興味、関心を引き出すことに留意して、教育全般についての基礎的事項の修得を目標とする。教科に関する一般的包括科目から前期に続き、通史としての日本の歴史や世界の歴史、人文地理の基礎等、中学校社会科教員としての基礎的教養の修得を到達目標とする。   |
| 2年次  | 前期 | 2年次前期からは、教科及び教科の指導法に関する科目の中でも、公共学科の必須の基礎的知見となる公共空間に関わる自然及び社会環境の保全と運用の在り方、また公共に関わる経済学的思考方法や社会政策等の専門的な知見を学び、公共空間の創成と運営に関わる学問的知識を修得することにより社会科教員としての資質の向上を図ることを到達目標とする。また、教育課程や学習指導要領の意味、意義について理解を深め、日本の学校のカリキュラム編成の概括的知識と、今日求められる教育内容について修得することを目標とする。学級活動をはじめとし、生徒会活動、学校行事といった特別活動の指導法の修得も目標とする。併せて社会科教員として必要な基本的な教科指導(公民的分野)の方法と、授業づくり、指導案作成の能力を身につけることを到達目標とする。   |
|      | 後期 | 前期に続き、公共学科の基幹・専門並びに教科及び教科の指導法に関する科目から、社会貢献の意義や住民参加型の地域開発の重要性、地誌学の方法、社会の経済メカニズムの理解に関わる経済学的思考方法等の修得を目標とし、公民、歴史、地理的分野の知見を修得する。また、道徳についての学習指導要領での位置づけや、その指導法、指導案作成の修得を到達目標とする。さらに、社会科教員として教科指導(公民的分野)の方法について、アクティブラーニング形式や、模擬授業の実践を通じて、その内容をさらに深化、拡充させ、教育実習を想定した授業実践の修得を目標とする。そして「いじめ」や「非行」も含めた生徒指導論の理論や方法と主体的な進路指導の方法の修得についても到達目標とする。  |
| 3年次  | 前期 | 教師が実施するカウンセリングマインドの基礎的な知識や、それをを用いた教育相談の方法を修得して、教師としての実践的指導力の向上(生徒への円滑な説論、叱責、評価方法や担当教諭や生徒とのコミュニケーション力、生徒理解の方法等)を到達目標とする。また、我が国の教育制度の特徴や、アクティブラーニング、ICT等の様々な教育実践方法と理論の理解を深めることを目標とする。併せて社会科教員として必要な基本的な教科指導(地理・歴史的分野)の方法と、授業づくり、指導案作成の力量を身につけることを目標とする。また公共学科の基幹・専門並びに教科及び教科の指導法に関する科目として、都市が持つ地政的意味、地域社会への参加の意義を学び公民分野の専門的知見を修得するとともに、さらには社会福祉の意味内容を学び公民分野の専門的知見を修得するとともに、本学社会科教員として必須の地理、歴史分野の専門的教養の拡充を到達目標とする。   |
|      | 後期 | 4年次からの教育実習を控え、生徒のパーソナリティ理解、青年期の心理、発達障害を持つ生徒との関わり方等、更なる児童・生徒の心理・行動に関する理解の修得を到達目標とする。加えて、教育の思想史を通じて、学校、地域、家庭の各領域別教育理念の更なる理解を目標とする。また社会科教員として教科指導(地理・歴史的分野)の方法について、アクティブラーニング形式や模擬授業の実践を通じて、その内容をさらに深化、拡充させ、教育実習を想定した授業実践の修得を目標とする。公共学科の基幹並びに教科及び教科の指導法に関する科目から、地域環境が持つ人間形成上の意味や、市民の義務としての公共倫理の考え方など、国際政治・経済も含む、今後の日本社会の様々な課題を想定した社会科教員としての公民的分野の専門的知見の修得を到達目標とする。教職関連科目からも生涯学習の理念を理解し学校体育と並行して、生涯スポーツとしての地域スポーツの意義について理解を深めることや、また安全に配慮できる教員の資質を高めるために心肺蘇生法、熱中症対応等の技術の修得も到達目標とする。 |
| 4年次  | 前期 | これまで修得した知識や技術を再点検し、指導案の留意すべき事項も含め、教育実習の意義をあらためて確認することを目標とする。実習校における教育実習では教科指導、生徒指導、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、学級経営等の教育活動全般を円滑にすすめることを目標とする。事後指導においては、実習ノート、実習校での評価を確認し、教員としての資質について自己分析をはかり、今後の獲得すべき教科の指導技術や教員としての心構えについて再構築することを目標とする。また実習校での研究授業を振り返り、授業実践、教材研究の再点検をはかることも目標とする。公共学科の基幹・専門並びに教科及び教科の指導法に関する科目からは、地域の持つ観光などを題材として、地域を歴史的、地誌学的側面から考察することや、地域社会における余暇活動に関わる法規則の学びから、社会科教員としての更なる地理や公民的分野の専門性を高めることを到達目標とする。   |
|      | 後期 | これまでの4年間で得られた教職に関する科目からの知見や、学科での基幹・専門並びに教科及び教科の指導法に関する科目で学んだ知識や技術、そして教育実習で得た体験等を踏まえて、教員に必要な基礎・基盤が修得できているかを「教職実践演習」における履修カルテ等を手がかりにして総括、再評価することを目標とする。また教職履修者の教員適性についても深く熟考させ、主体的な進路選択を図ることも最終年度の到達目標とする。また学部カリキュラムとしてのゼミナールIV(4年次ゼミ)等の卒業研究で得た「公共学」を主とした学科の専門的知見を、教職という人的援助職に収斂することも最終的な到達目標とする。   |

<公共学科>(高校一種免許状(公民))

(1)各段階における到達目標

| 履修年次 |    | 到達目標   |
|------|----|--|
| 年次   | 時期 |  |
| 1年次  | 前期 | 公共学科では、地域社会の創造に関わる公共空間の創成と運営について教育研究することを教育理念とし公共空間のマネジメントに関わる経営的発想と企画力・実行力を有する人材の育成を目指している。この学位プログラムを軸に、本学教職課程履修生は、1年次前期に教職に就くことの意義や社会的使命、あわせて服務内容、分限と懲戒、校務分掌等について、また生徒の心身の発達や学習理論、障がいを持つ生徒の発達、学習過程についての基礎的理解の深化を到達目標とする。更に教科に関する一般的包括科目からは、公民科として必須である国際政治を含む政治学や国際法を含む法学の基礎、人間としての在り方や行動原理を考察する現代の倫理や哲学、心理学についての基礎的な知見、さらに現代人の課題である人間と宗教の関係、公共学科の基幹となるべく必須の基礎的知見である「公共学」の意義や概括的内容の修得を到達目標とする。                                       |
|      | 後期 | 1年前期に引き続きゼミナールIB(1年次ゼミ)などの学部カリキュラム(自分成長プログラム)を通じて、学生各自の進路について熟慮する機会を与え、望ましい勤労観・職業観の形成を図り、教職への適性も熟考させる。加えて教育の理念や思想、歴史の基礎的理解と、教育に関する社会的事項(いじめや不登校といった今日的課題)や教育の制度、そして学校経営の内容についての見識を深め、教員という職業への興味、関心を引き出すことも留意して、教育全般についての基礎的事項の修得を目標とする。また教科に関する一般的包括科目から、前期に続き人間としての在り方や行動原理を考察する現代の倫理や哲学、心理学についての基礎的な知見、共生社会を考える地域コミュニティの意義を修得する。また、前期で学んだ公共学の更なる深化のために、ICTを利用したアクティブラーニング形式も交え、地域社会の諸問題について学生相互で議論、考察し、現代社会の諸問題と公共空間の役割の理解を到達目標とする。 |
| 2年次  | 前期 | 2年次前期からは、「公共」に関する経済学的思考方法や社会政策等の専門的な知見を学び、公共についての幅広い素養を修得することにより公民科教員としての広範な知識を修得することを到達目標とする。また、教育課程や学習指導要領の意味、意義について理解を深め、日本の学校のカリキュラム編成の概括的知識と、現代教員が求められる教育内容について修得することを目標とする。ホームルーム活動をはじめとし、生徒会活動、学校行事といった特別活動の指導法の修得も目標とする。併せて公民科の教員として必要な基本的な教科指導(公民的分野)の方法と、授業づくり、指導案作成の力量を身につけることを到達目標とする。   |
|      | 後期 | 前期に続き、公共学科の基幹・専門科目から、公共空間での政策も含めた様々な課題解決の方法、手段の修得、また現代社会の公民(国民、市民、地域住民)の義務としての公共倫理の考え方、現代社会や経済の課題について公共に係る経済分析手法や社会政策理論からその方法論を学び、公民科教員としての幅広い知識を修得することを到達目標とする。また、公民科の教科指導方法と授業づくり、指導案の作成について、アクティブラーニング形式や、模擬授業の実践を通じて、その内容を深化、拡充させ、教育実習を想定した円滑な授業実践の修得を目標とする。「いじめ」や「非行」も含めた生徒指導論の理論や方法、また主体的な進路指導の方法の修得についても到達目標とする。  |
| 3年次  | 前期 | 教師が実施するカウンセリングマインドの基礎的な知識や、それをを用いた教育相談の方法を修得して、教師としての実践的指導力の向上(生徒への円滑な説諭、叱責、評価方法や担当教諭や生徒とのコミュニケーション力、生徒理解の方法等)を到達目標とする。また、我が国の教育制度の特徴や、アクティブラーニング、ICT等の様々な教育実践方法と理論の理解を深めることを到達目標とする。そして、公共学科の基幹・専門および教科及び教科の指導法に関する科目からは、地域への参加の意義や方法、また地域環境保全の意義、そして社会福祉の理念、方法についての理解を深め、学習指導要領での「人間としての生き方」や「私たちの生きる社会」といった公民分野の専門的知見を修得することを到達目標とする。   |
|      | 後期 | 4年次からの教育実習を控え、生徒のパーソナリティ理解、青年期の心理、発達障害を持つ生徒との関わり方等、更なる児童・生徒の心理・行動に関する理解の修得を到達目標とする。また、教育の思想史を通じて、学校、地域、家庭の各領域別教育理念の更なる理解を到達目標とする。公共学科の基幹および教科及び教科の指導法に関する科目からは、地域環境への関わりが人間形成に与える意味や、社会貢献活動の意義や方法等、今後の日本社会の様々な課題を想定した公民科教員としての知的専門性の修得を到達目標とする。教職関連科目からも生涯学習の理念を理解し学校体育と並行して、生涯スポーツとしての地域スポーツの意義について理解を深めることや、また安全に配慮できる教員の資質を高めるために心肺蘇生法、熱中症対応等の技術の修得も到達目標とする。  |
| 4年次  | 前期 | これまで修得した知識や技術を再点検し、指導案の留意すべき事項も含め、教育実習の意義をあらためて確認することを目標とする。実習校における教育実習では教科指導、生徒指導、特別活動、総合的な学習の時間、学級経営等の教育活動全般を円滑にすすめることが目標となる。事後指導においては、実習ノート、実習校での評価を確認することによって、教員としての資質について自己分析をはかり、今後の獲得すべき教科の指導技術や教員としての心構えについて再構築することを目標とする。また実習校での研究授業を振り返り、授業実践、教材研究の再点検をはかることも目標とする。公共学科の基幹・専門並びに教科及び教科の指導法に関する科目から、地域社会の維持・運営に関わる法理論および法の役割を修得するなど、公民科教員としての専門性を高めることを目標とする。   |
|      | 後期 | これまでの4年間で得られた教職に関する科目での知見や、学科での基幹・専門並びに教科及び教科の指導法に関する科目で学んだ知識や技術、そして教育実習で得た体験等を交えて、教員に必要な基礎・基盤が修得できているかを「教職実践演習」における履修カルテ等を手がかりにして総括、再評価することを到達目標とする。また教職履修者の教員適性についても深く熟考させ、主体的な進路選択を図ることも最終年度の到達目標とする。加えて学部カリキュラムとしてゼミナールIV(4年次ゼミ)等の卒業研究で得た「公共学」を主とした学科の専門的知見を教職という人的援助職に収斂することも最終的な教職履修者としての到達目標とする。  |

<公共学科>(高校一種免許状(商業))

(1)各段階における到達目標

| 履修年次 |    | 到達目標  |
|------|----|---|
| 年次   | 時期 |   |
| 1年次  | 前期 | 公共学科では、営利・非営利団体等の社会的事業、社会貢献活動のマネジメントを修得することで、公共空間の創生と運用を通じて地域社会の創造に寄与する人材の育成を目指している。商業科の教員を目指すものは、この学科理念を基軸として、商業がビジネスを媒介として個人と地域、地域と地域を結ぶ重要な社会的経営活動であることにも留意して各段階の到達目標を修得する。商業科教員を目指す者は、1年次前期に教職に就くことの意義や社会的使命、あわせて服務内容、分限と懲戒、校務分掌等について、また生徒の心身の発達や学習理論、障がいを持つ生徒の発達、学習過程についての基礎的理解を深めることを到達目標とする。更に公共学科の基幹並びに教科及び教科の指導法に関する科目からは、商業科として必須である簿記の概念と方法や、商業・流通の基礎概念、地域内・地域間のビジネスの活性化を創造する経営情報システムの基礎的な知見を修得する。非営利組織(NPO)の運営方法と理念の修得も到達目標とする。  |
|      | 後期 | 1年前期に引き続きゼミナールIB(1年次ゼミ)などの学部カリキュラム(自分成長プログラム)を通じて、学生各自の進路について熟慮する機会を与え、望ましい勤労観・職業観の形成を図り、教職への適性も熟考させる。加えて教育の理念や思想、歴史の基礎的理解と、教育に関する社会的事項(いじめや不登校といった今日的課題)や教育の制度、そして学校経営の内容についての見識を深め、教員という職業への興味、関心を引き出すことにも留意して、教育全般についての基礎的事項の修得を目標とする。公共学科の基幹・専門並びに教科及び教科の指導法に関する科目としては、前期に続き、ビジネス活動の活性化に有用な経営情報システムの応用や経営組織が創造する情報の活用技術の修得、また地域や個人のニーズの情報収集の重要性を探るマーケティングの基礎等を修得することを到達目標とする。   |
| 2年次  | 前期 | 2年次前期からは、公共学科の必須の基礎的知見である官民連携による公共財の創造といった地域経営、公企業の会計の実際、また教職関連科目から企業の社会貢献の意味内容と方法について学び、公共学科の商業科教員としての幅広い知識を修得することを到達目標とする。また、教育課程や学習指導要領の意味、意義について理解を深め、日本の学校のカリキュラム編成の概括的知識と、教員が求められる教育内容について修得することを目標とする。ホームルーム活動をはじめとし、生徒会活動、学校行事といった特別活動の指導法の修得も目標とする。併せて商業科の教員として必要な基本的な教科指導の方法と、授業づくり、指導案作成の力量を身につけることを目標とする。   |
|      | 後期 | 前期に続き、公共学科の基幹となるべく知見である、政府、企業、非営利組織の経済活動の意義・役割、個人や地域のニーズの情報収集の重要性を探るマーケティングの方法、情報システムの運用と法的保護の関係性等を学び、公共学科での商業科教員としての幅広い知識を修得することを到達目標とする。さらに、商業科の教科指導方法と授業づくり、指導案の作成について、アクティブラーニング形式や模擬授業の実践を通じてその内容をさらに深化、拡充させ、教育実習を想定した円滑な授業実践の修得を目標とする。「いじめ」や「非行」も含めた生徒指導論の理論や方法、また主体的進路指導の方法の修得についても到達目標とする。  |
| 3年次  | 前期 | 教師が実践するカウンセリングマインドの基礎的な知識やそれを用いた教育相談の方法を修得して、教師としての実践的指導力の向上(生徒への円滑な説諭、叱責、評価の方法や担当教諭や生徒とのコミュニケーション力、生徒理解の方法等)を到達目標とする。また、我が国の教育制度の特徴や各種教育の法規、そしてアクティブラーニング、ICT等の様々な教育実践方法と理論の理解を深めることを目標とする。公共学科の基幹並びに教科及び教科の指導法に関する科目として、ICT(情報通信技術)教育も想定したプログラミング言語の修得や、WWW等情報ネットワークの特徴や仕組み、原価計算の方法、NPOの経営戦略そして教職関連科目から企業などの経営分析及び管理に関する知識、地域の活性化に重要な商業活動のマネジメント等、商業科教員の専門的知見を修得することを到達目標とする。   |
|      | 後期 | 4年次からの教育実習を控え、生徒のパーソナリティ理解、青年期の心理、発達障害を持つ生徒との関わり方等、更なる児童生徒の心理・行動理解の修得を到達目標とする。また、教育の思想史を通じて、学校、地域、家庭の各領域別教育理念の更なる理解を到達目標とする。公共学科の基幹並びに教科及び教科の指導法に関する科目としては、前期に続きICT(情報通信技術)教育も想定したプログラミング言語の活用や、WWW等情報ネットワークの特徴や仕組み、原価計算の理論と計算方法を学ぶとともに、人間の最も原初的な社会的行動である消費行動の社会科学的理解や、地域社会が持つ観光資源の文化的、経済的役割等、商業科教員としての幅広い知的専門性の修得を到達目標とする。教職関連科目からも生涯学習の理念を理解し学校体育と並行して、生涯スポーツとしての地域スポーツの意義について理解を深めることや、また安全に配慮できる教員の資質を高めるために心肺蘇生法、熱中症対応等の技術の修得も到達目標とする。 |
| 4年次  | 前期 | これまで修得した知識や技術を再点検し、指導案の留意すべき事項も含め、教育実習の意義をあらためて確認することを到達目標とする。実習校における教育実習では教科指導、生徒指導、特別活動、総合的な学習の時間、学級経営等の教育活動全般を円滑にすすめることも到達目標になる。事後指導においては、実習ノート、実習校での評価を理解し、教員としての資質について自己分析をはかり、今後の獲得すべき教科の指導技術や教員としての心構えについて再構築することを目標とする。また実習校での研究授業を振り返り、授業実践、教材研究の再点検をはかることも目標とする。公共学科の基幹並びに教科及び教科の指導法に関する科目からは、地域社会の組織体が営利・非営利活動を存続する上での必須の法的基礎知識を修得し、商業科教員としての幅広い専門的知見の修得を到達目標とする。  |
|      | 後期 | これまでの4年間で得られた教職に関する科目からの知見や、学科での基幹・専門並びに教科及び教科の指導法に関する科目で学んだ知識や技術、そして教育実習で得た体験等交えて、教員に必要な基礎・基盤が修得できているかを「教職実践演習」における履修カルテ等を手がかりにして総括、再評価することを到達目的とする。また教職履修者の教員適性についても深く熟考させ、主体的な進路選択を図ることも最終年度の到達目標とする。また学部カリキュラムとしてゼミナールIV(4年次ゼミ)等の卒業研究で得た「公共学」を主とした学科の専門的知見を、教職という人的援助職に収斂することも最終的な教職履修者としての到達目標とする。   |